

# 景況調査

(平成26年1月～平成26年3月期)

平成26年1月～3月期の守山企業景況調査の結果は、次の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。

逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んで

いると考えられる。

平成26年1月～3月期の調査結果では、業況、売上高、採算(経常利益)が改善したが、資金繰りは悪化している。

## 〈業況〉

業況DIは1.5とプラスの数値になった。これは前回調査に比べて47ポイントの改善である。業種別では、製造業25.0、建設業30.0、卸売業50.0と3業種がプラスの数値となり、小売業▲15.8、サービス業▲25.0とマイナスの数値であった。

4～6月期見通しは、全体で▲29.7と大きく下っており、建設業を除く全ての業種でマイナスの数値となっている。

## 〈売上高〉

売上高DIは21.7と前回調査に比べて24.7ポイント上昇している。業種別では小売業5.3、製造業33.3、建設業58.3、サービス業0.0、卸売業50.0とサービス業

を除く全ての業種でプラスの数値であり、サービス業も0.0とマイナスの数値ではなかった。

4～6月期見通しは全体で▲30.4と大きく下っている。

## 〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは1.5と前回調査に比べて28.8ポイント上昇している。業種別には、小売業が▲5.3、製造業が16.7、建設業が27.3で、サービス業が▲30.0、卸売業が50.0で、小売業とサービス業はマイナスの数値であったが残りの製造業、建設業、卸売業はプラスの数値であった。

4～6月期見通しでは、全体で▲29.4と大きく下っている。

## 〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲8.1と前回調査に比べて4.7ポイント下降している。業種別では、小売業▲5.9、製造業0.0、建設業▲16.7、サービス業▲12.5、卸売業0.0となり、製造業と卸売業の0.0以外はマイナスの数値であった。4～6月期見通しでは、全体で▲21.1と大きく下っている。

